

パート6 治療薬の変更

13. 薬剤変更経験

・これまでに HIV の治療薬を変更した経験がある人は全体の 61.4%でした (図 13-1)。薬剤変更経験のある 569 人 (無回答除く) では、変更理由として、「錠数を少なくするため」35.7%、「副作用軽減のため」33.9%が多くなっていました (表 13-1)。

・直近の薬剤変更のきっかけ (無回答除く 571 人) は、「医師に薦められた」が 86.2%と最も多くなっていました (図 13-2)。

図13-1 これまでの薬剤変更回数 (n=927)

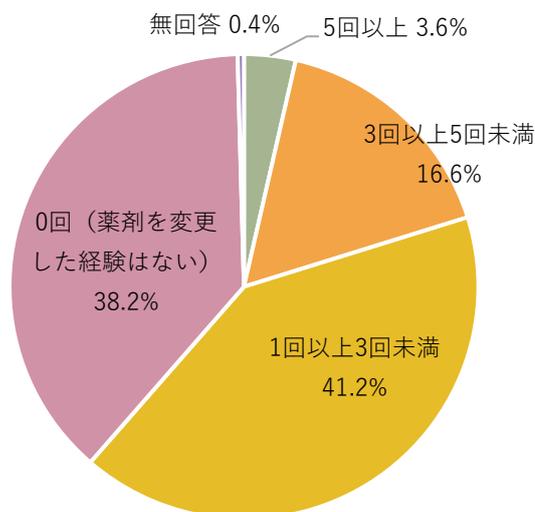


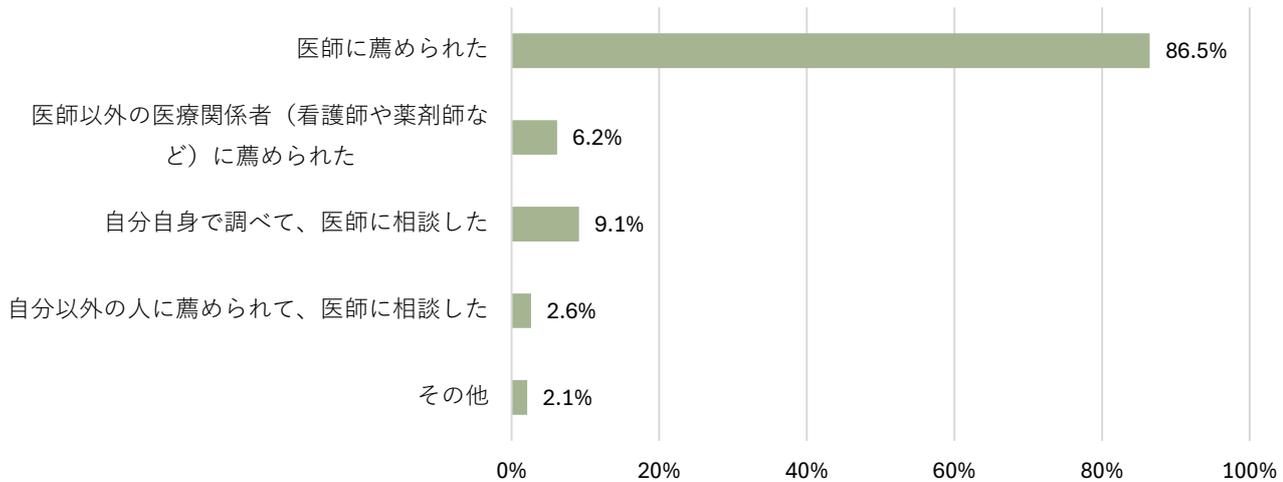
表 13-1 薬剤変更理由 (n=569*,複数選択)

	n	%
錠数を少なくするため	203	35.7%
副作用軽減のため	193	33.9%
より高い効果を期待したため	130	22.8%
1日の服薬回数を減らすため	124	21.8%
より小さい錠剤にするため	84	14.8%
将来的な副作用のリスク軽減のため	74	13.0%
その他	59	10.4%
ボトルではなく、他の疾患の治療薬と同じような PTP 包装形態 (薬剤をアルミなどとプラスチックで1錠ずつ分けて包装したもの) が良かったため	18	3.2%
医師に勧められたため	16	2.8%
食事に関係なく服用できるため	13	2.3%
飲み薬以外の剤型が良かったため	11	1.9%
新薬が出たため	8	1.4%
通院頻度を減らすため	5	0.9%

*これまでの薬剤変更回数が「5回以上」「3回以上5回未満」「1回以上3回未満」と回答した569名

図13-2 薬剤を変更したきっかけ (n=569*,複数回答)

*これまでの薬剤変更回数が「5回以上」「3回以上5回未満」「1回以上3回未満」と回答した569名



14. 薬剤耐性

- ・これまでに「薬が効いていない」や「治療効果があらわれていない」などと医師や薬剤師から言われた経験がある人は4.7%でした（図14-1）。
- ・これまで薬剤耐性について見聞きしたことがある人は76.1%でした（図14-2）。
- ・自身に薬剤耐性が検出されていると言われたことがある人は3.5%でした（図14-3）。HIV陽性診断が2009年以前の群では8.8%と、他の時期の群よりも多くなっていました（図14-4）。
- ・HIV薬剤耐性の発現について不安に感じる人が63.2%、「わからない」も13.8%になっていました（図14-5）。特に2019年以降にHIV陽性診断がされたグループで、不安に感じる人が70.7%と多くなっていました（図14-6）。

図14-1 薬が効いていない・治療効果があらわれていないなどと医師や薬剤師から言われたことがあるか (n=865)

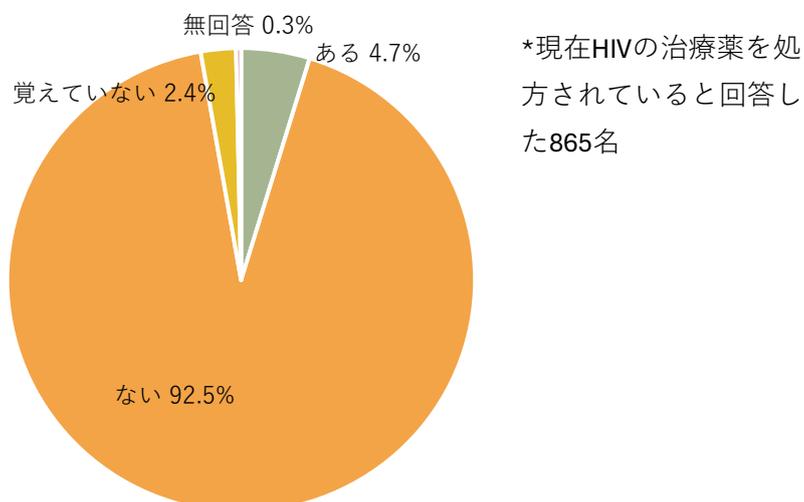


図14-2 薬剤耐性について見聞きしたことはあるか (n=865)

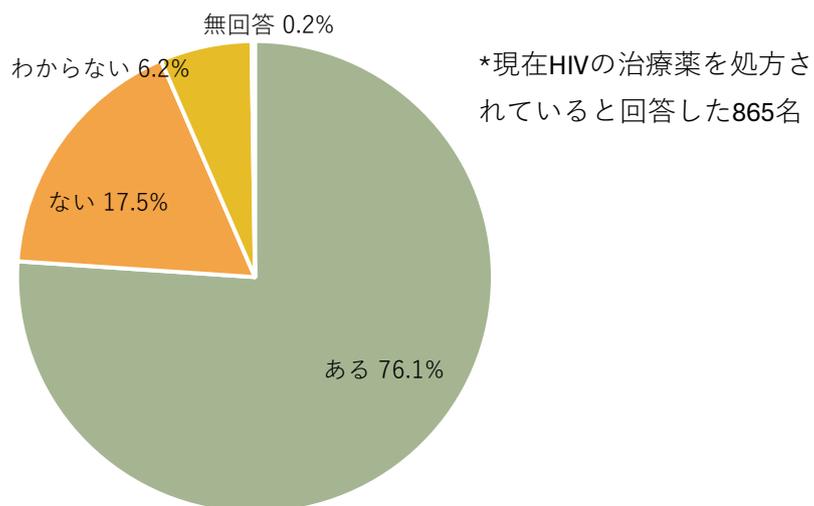


図14-3 これまでHIV治療期間中にご自身に薬剤耐性が検出されていると言われたことはあるか (n=865)

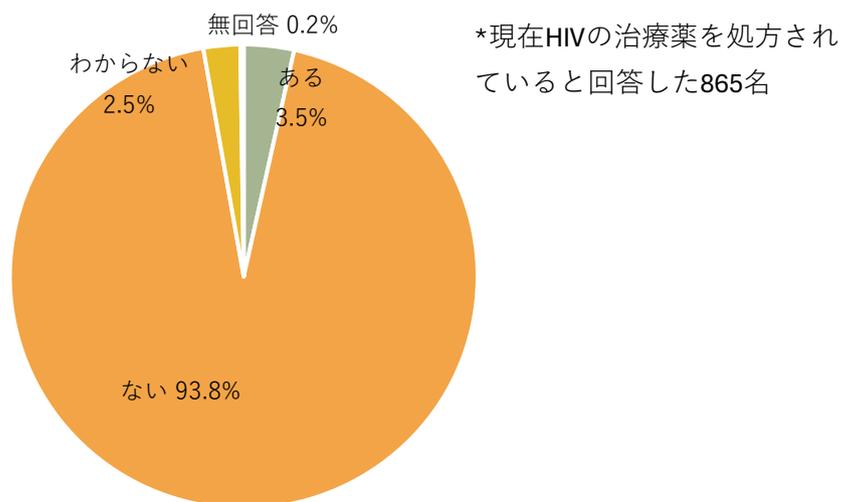


図14-4 HIV陽性診断時期群別、これまでHIV治療期間中にご自身に薬剤耐性が検出されていると言われたことはあるか (n=862)

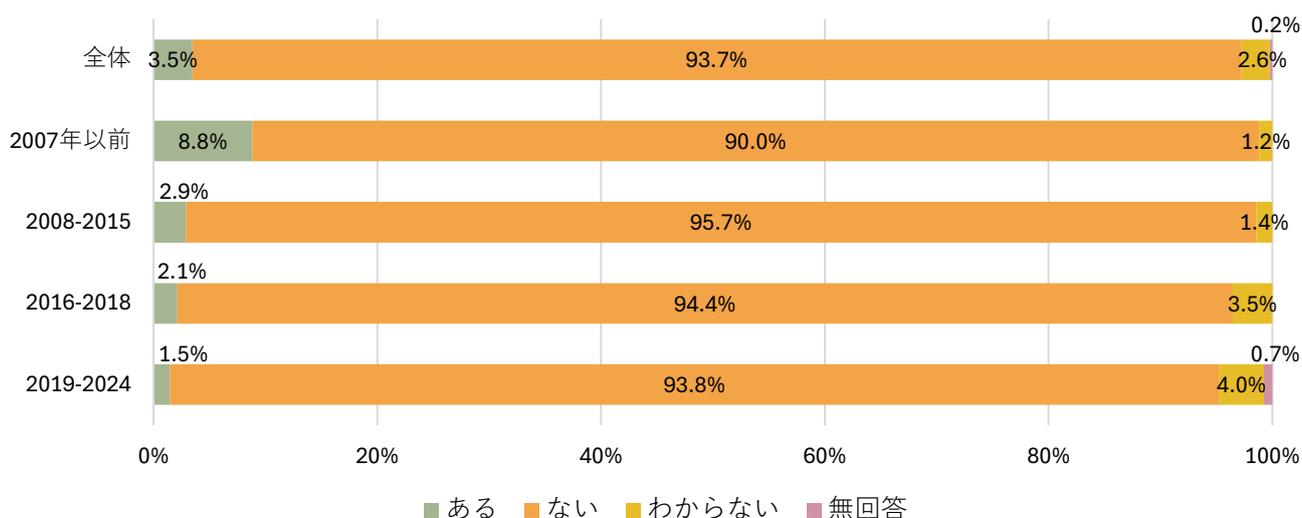
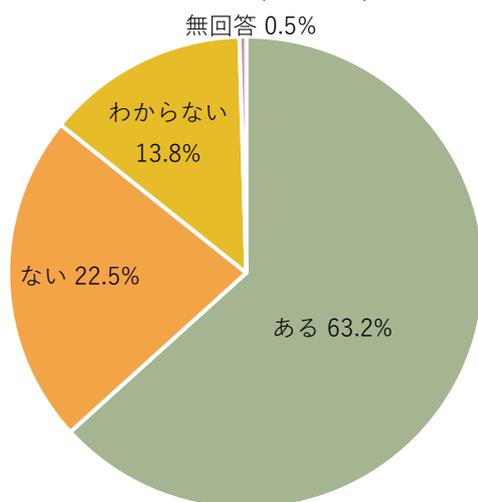
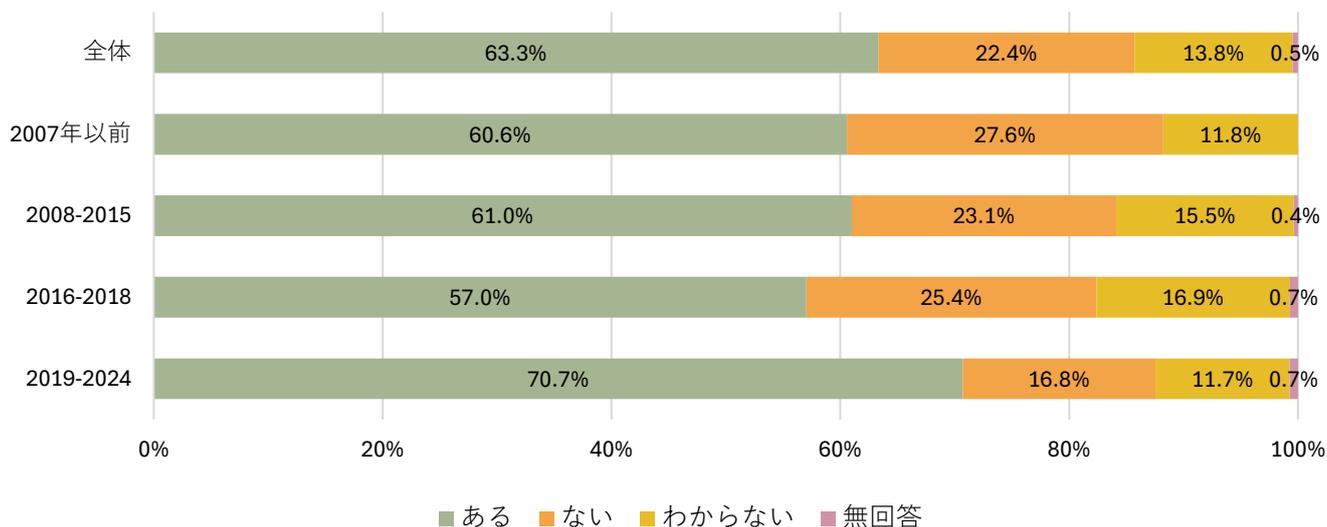


図14-5 HIV薬剤耐性の発現について不安に感じることはあるか (n=865)



*現在HIVの治療薬を処方されていると回答した865名

図14-6 HIV陽性診断時期群別、HIV薬剤耐性の発現について不安に感じることはあるか (n=862)



15. 治療について要望や質問を医師に伝えているか

・定期的な通院をしている 887 人で、HIV の治療や治療薬について、医師に要望を伝えたり、質問したりしているかという問に対して、「すべて伝えている」22.7%、「おおむね伝えている」56.1%でした（図 15-1）。

・「半分くらいは伝えている」「ほとんど伝えられていない」「伝えていない」のいずれかの回答をした 185 人に、その理由をたずねたところ「理由は特にない」が最も多く 35.7%、ついで「医師の前では『良い患者』を演じてしまうから」が 23.8%、「医師が忙しそうにしているから」が 22.7%でした（図 15-2）。

図15-1 HIVの治療や治療薬について医師にどの程度要望を伝えたり

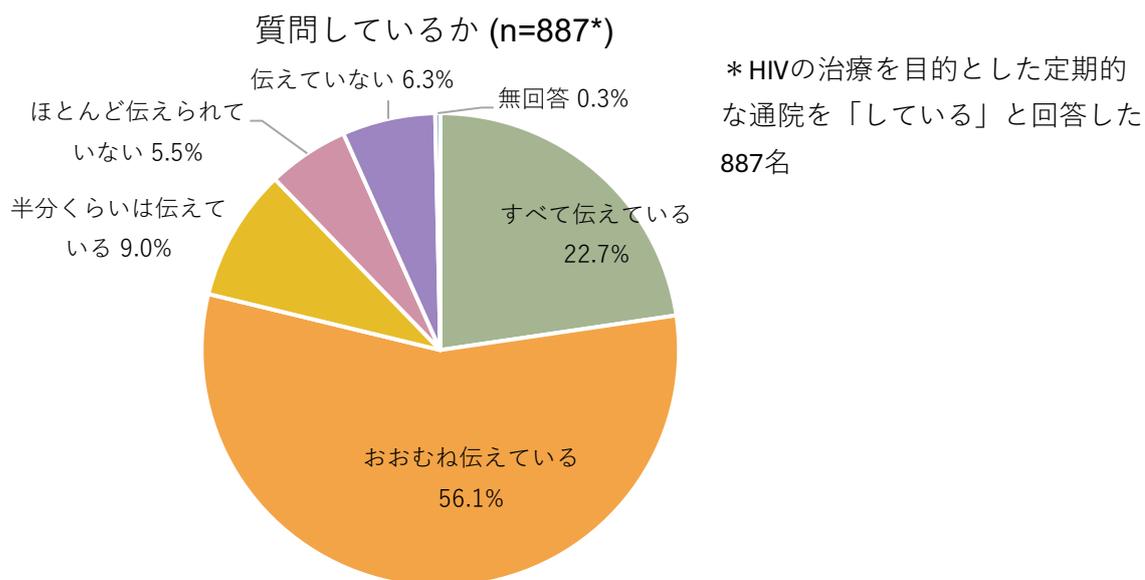
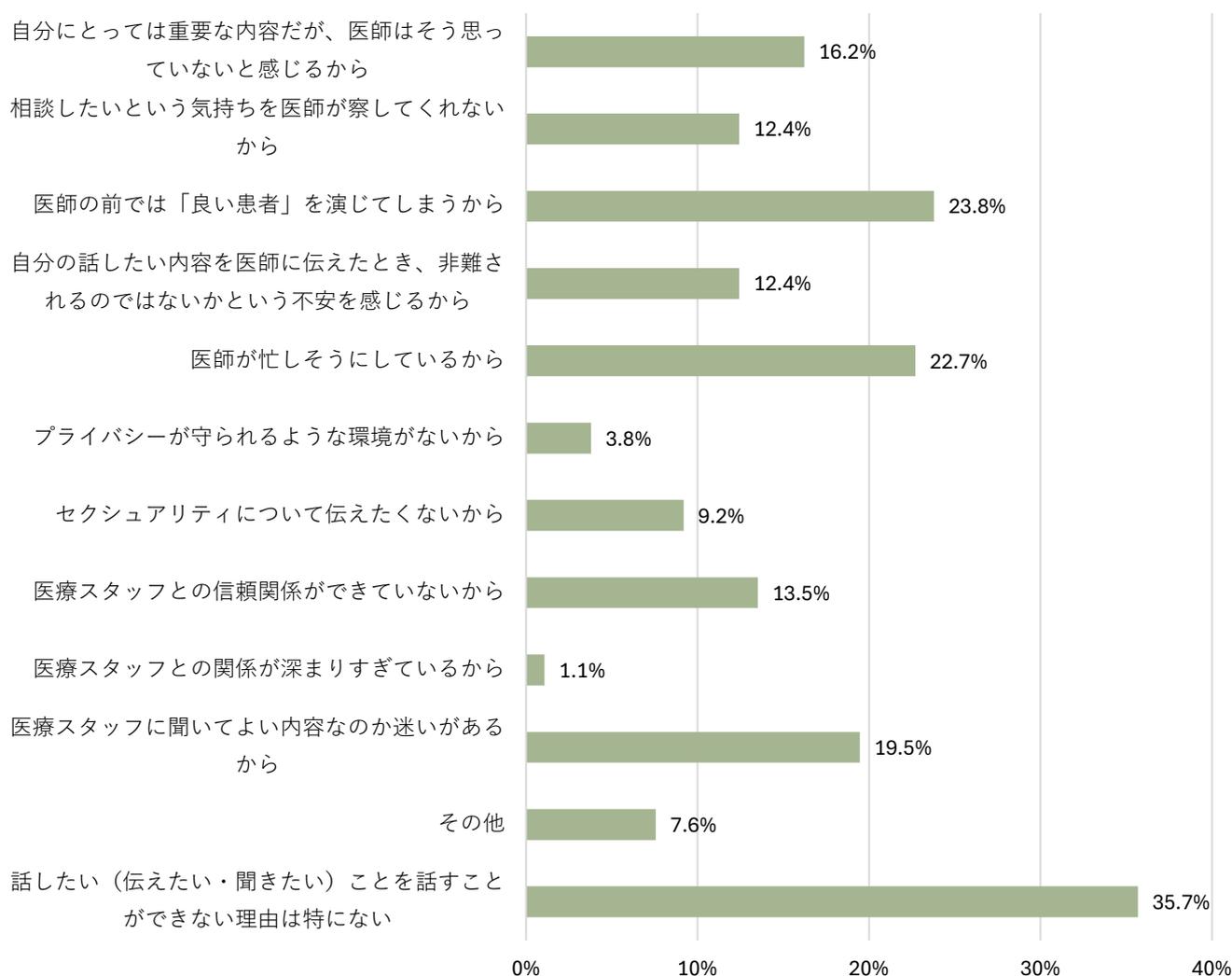


図15-2 HIVの治療や治療薬について医師に要望を伝えられない理由は何か

(n=185*,複数選択)

* HIVの治療や治療薬について要望を「半分くらいは伝えている」「ほとんど伝えられていない」「伝えていない」と回答した185名



16. 治療変更の要望

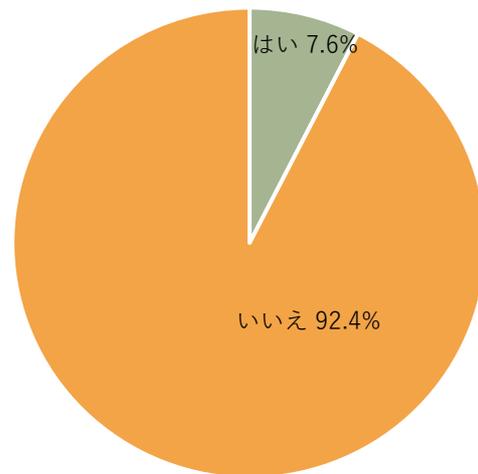
・ HIV の治療や治療薬について、医師にあなたの要望を「半分くらいは伝えている」「ほとんど伝えられていない」「伝えていない」とする 185 人のうち、HIV の治療（薬剤）を変更したいという要望について医療関係者に伝えたことがある人は 14 人（7.6%）でした（図 16-1）。

・ 伝えた 14 人にその内容を伝えた医療関係者（複数回答）をたずねたところ、医師が 14 人（100.0%）と全員でしたが、看護師や薬剤師も各 1 人（各 7.1%）があげていました（図 16-2）。

・ 伝えた 14 人に、伝えた結果どうなったのかをたずねたところ、「治療（薬剤）が変更になり問題が解決した／自分にとってよい結果になった」が 9 人（64.3%）でした（図 16-3）。

図16-1 HIVの治療を変更したいという要望について医療関係者に

伝えたことがあるか (n=185*)



* HIVの治療や治療薬について要望を「半分くらいは伝えている」「ほとんど伝えられていない」「伝えていない」と回答した185名

図16-2 HIVの治療変更の要望を誰に伝えたか (n=14*,複数選択)

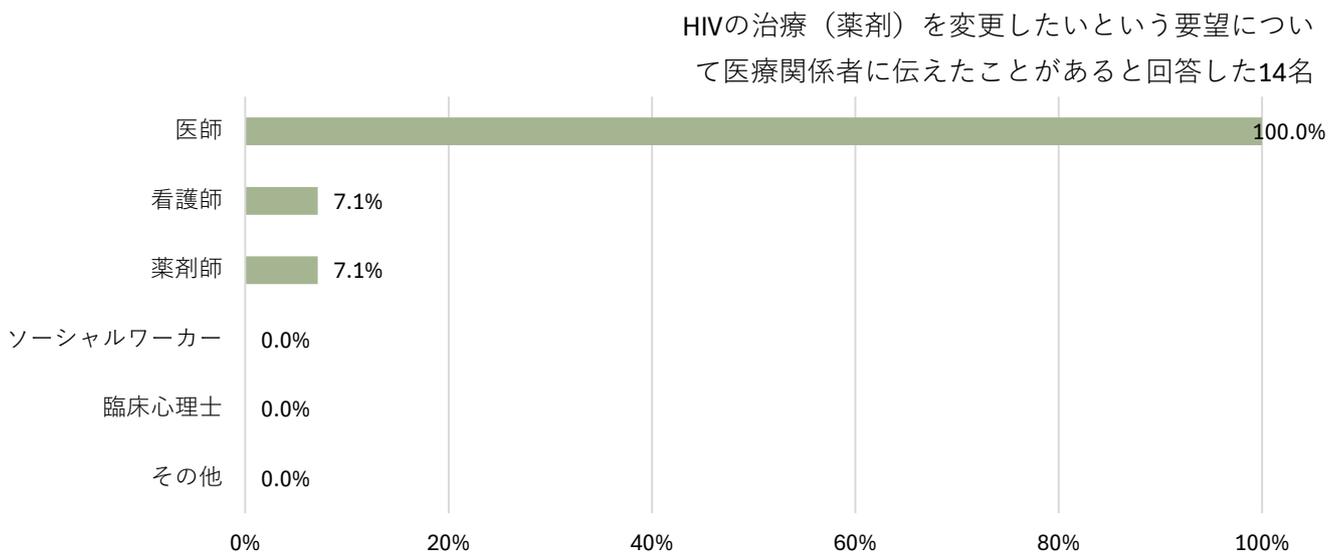
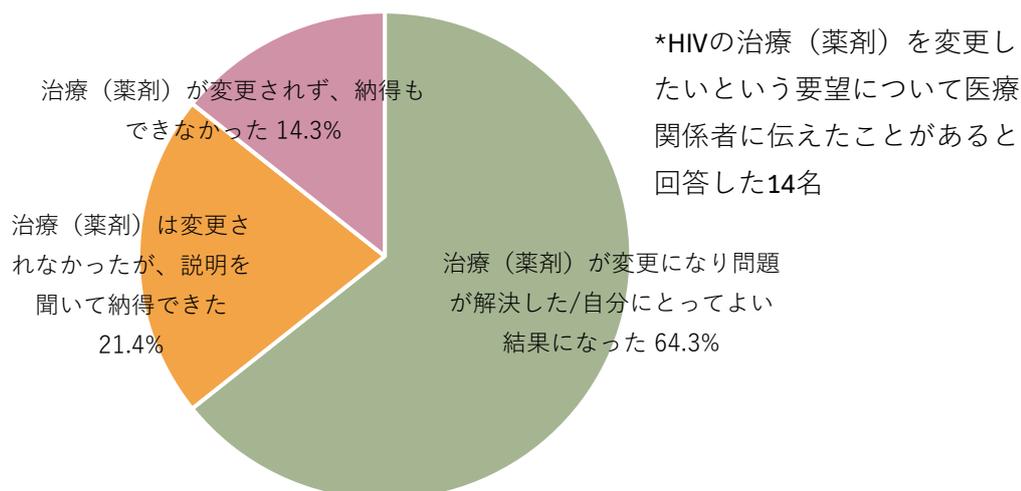


図16-3 HIVの治療変更の要望を伝えた結果どうなったか (n = 14*)



17. 新しい治療薬の紹介

・定期的な通院をしている 887 人について、過去 3 年以内に、HIV 治療薬の新しい薬剤について、医療関係者から紹介されたことがあるかたずねたところ、「しばしば紹介されたことがある」14.0%、「たまに紹介されたことがある」37.1%でした（図 17-1）。

・新しい HIV の治療薬が発売になったら、医療関係者から紹介してほしいと思うかとたずねたところ、「とても紹介してほしい」44.2%、「そこそこに紹介してほしい」51.5%でした（図 17-2）。

・現在の治療薬で順調に治療できているとしても、より良いと思う別の薬を紹介されたら、治療薬を変更したいと思うかという問に対して「はい」が 83.8%でした（図 17-3）。

・上記で「はい」と答えた 743 人に、変更してみたい治療薬をたずねたところ、「副作用がない／今より副作用が少ない」「より効果が期待できる」「薬剤耐性が発現しにくい」「通院頻度を減らせる」「将来的な副作用のリスク軽減が期待できる」が上位になっていました。一方で、選択肢にはありませんが「完治する」を 12 人が自由記載欄に記入していました（図 17-4）。

・現在の治療薬で順調に治療できているならば治療薬の変更をしないと思わないとする 139 人に、その理由をたずねたところ、「今の治療薬で満足しているから・今の治療薬で問題ないから」を 77.0%があげていました（図 17-5）。

図17-1 過去3年以内に抗HIV治療の新しい薬剤について医療関係者から紹介されたことはあるか (n=887*)

* HIVの治療を目的とした定期的な通院を「している」と回答した887名

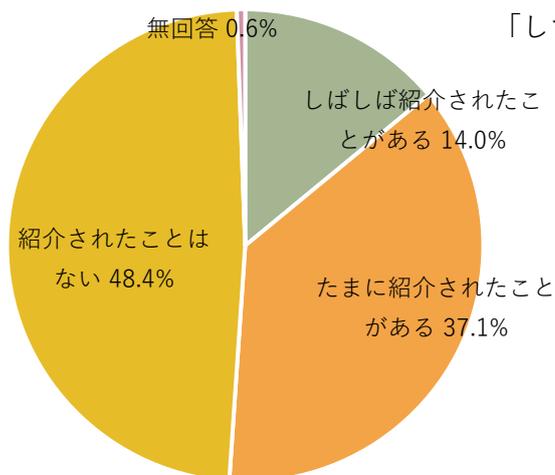


図17-2 新しい抗HIV治療薬が発売になったら医療関係者から紹介してほしいと思うか (n=887*)

* HIVの治療を目的とした定期的な通院を「している」と回答した887名

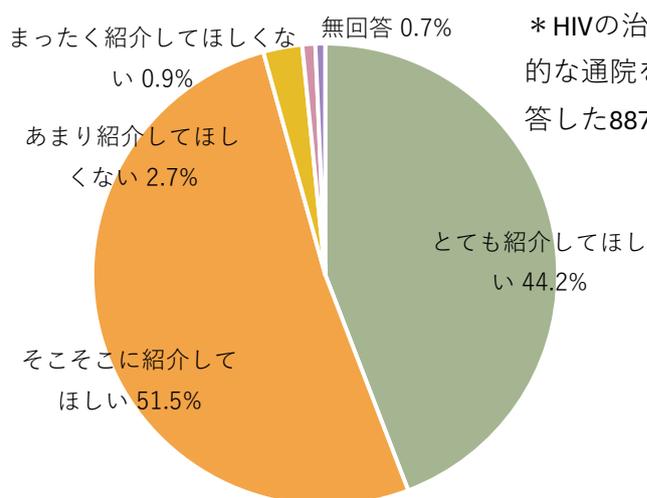


図17-3 今の治療薬で順調に治療できていても、より良いと思う別の薬を障害されたら、治療薬を変更したいか (n=887*)

* HIVの治療を目的とした定期的な通院を「している」と回答した887名

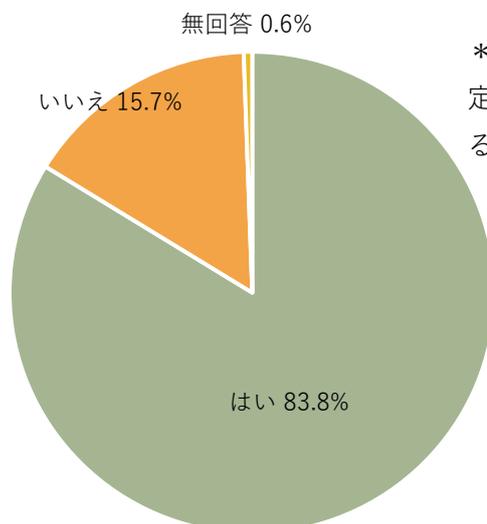


図17-4 どのような治療薬であれば変更してみたいと思うか

(n=743*,複数回答)

*今の治療薬で順調に治療できていても、より良いと思う別の薬を紹介されたら、治療薬を変更したいと回答した743名

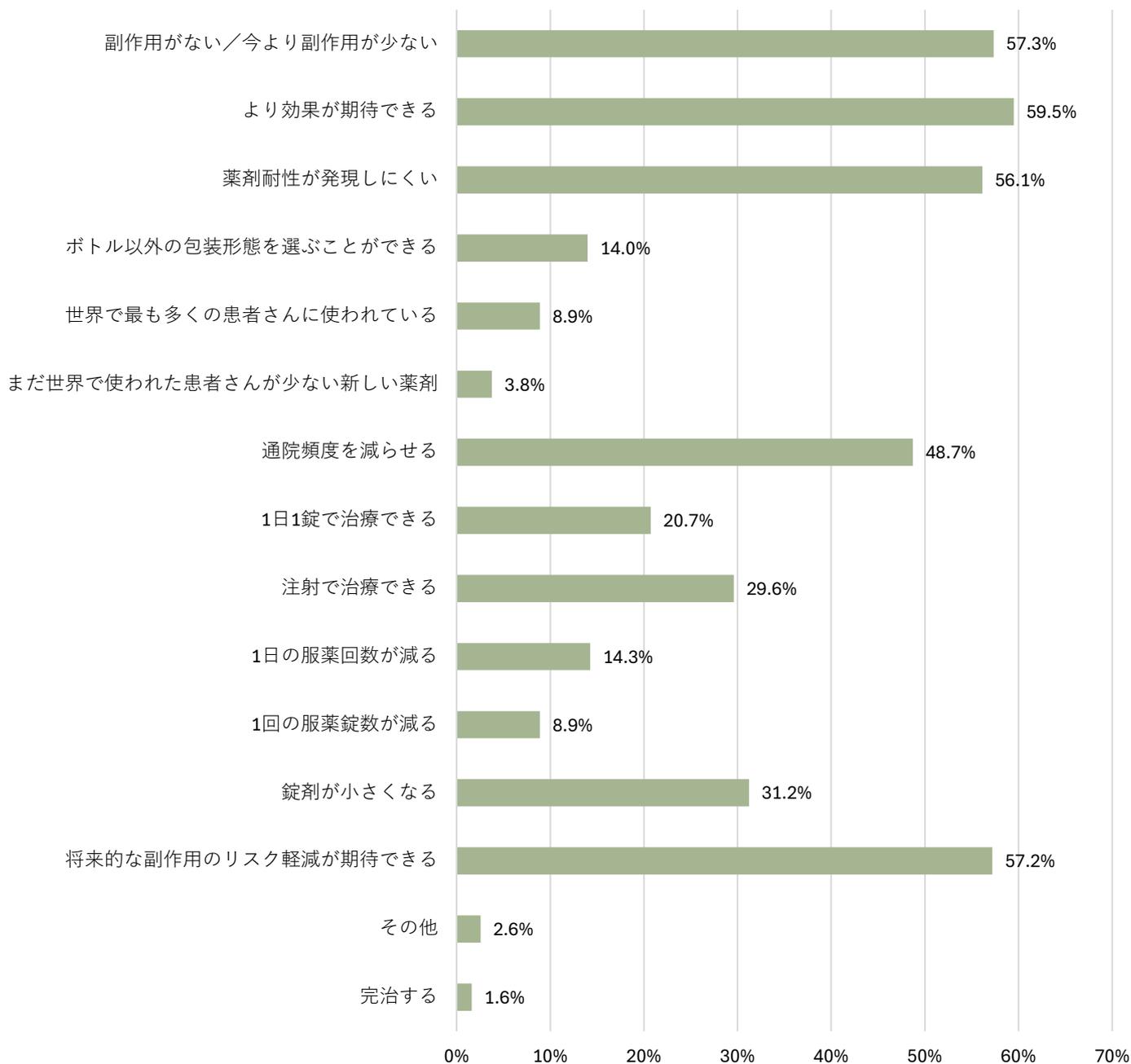
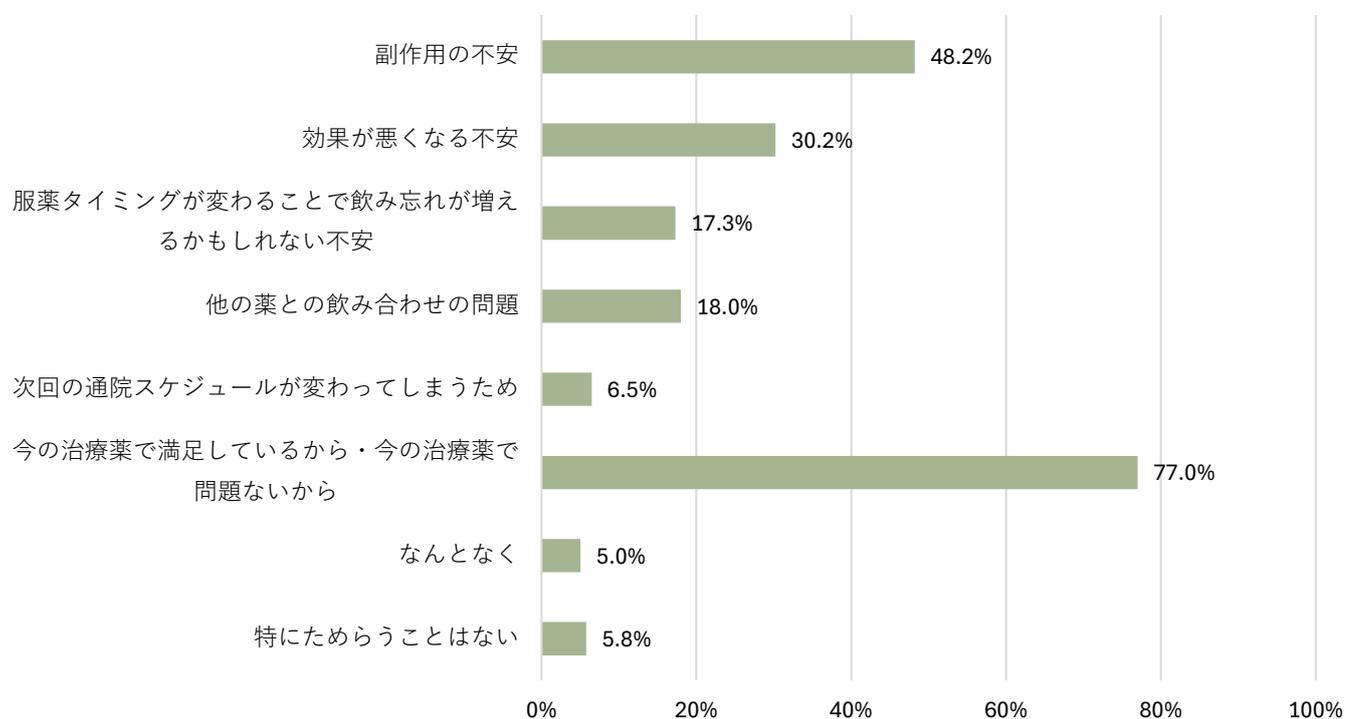


図17-5 現在の治療薬の変更をためらうのはどういう理由からか(n=139*,複数選択)

*今の治療薬で順調に治療できていても、より良いと思う別の薬を紹介されたら、治療薬を変更したいと思わないと回答した139名



18. PTP 包装

・PTP 包装とは、錠剤やカプセルをプラスチックとアルミで挟んだシート状のものに包装したものを指します。プラスチック部分を強く押す事でアルミが破け、中の薬が1錠ずつ取り出されます。

・PTP 包装のある HIV 治療薬を内服している人 359 人のうち、HIV 治療薬の中で PTP 包装形態を有する薬剤があることを知らない人は 37.3%、知っているが今 PTP 包装形態では服用していない人が 35.4%でした（表 18-1）。知っているが、今 PTP 包装形態ではない 127 人のうち、PTP 包装に変更することを医師から紹介または勧められたことがない人は 73.9%でした（表 18-2）。

表 18-1 PTP 包装形態の薬剤があることを知っているか (n=359*)

	n	%
知らない	134	37.3%
知っているが、今 PTP 包装形態では服用していない	127	35.4%
知っており、今 PTP 包装形態で服用している	98	27.3%

*現在 HIV の治療で処方されている薬剤が「ビクタルビ」と回答した 359 名

表 18-2 ボトル包装から PTP 包装に変更することを医師から紹介・勧められたか (n=127*)

	n	%
ある	56	44.1%
ない	65	51.2%
覚えていない	6	4.7%

*PTP 包装形態の薬剤があることを「知っているが、今 PTP 包装形態では服用していない」と回答した 127 名

おわりに

調査データの分析並びに本サマリー執筆については、株式会社アクセライトの調査研究コンサルティング部門に行いました。

調査及び調査の結果に関するお問い合わせは、株式会社アクセライトの問い合わせフォームよりご連絡ください。

2024年8月30日 第1版

株式会社アクセライト

代表：板垣貴志

東京都文京区本郷 3-5-4 朝日中山ビル 5F

お問い合わせ

<https://accelight.co.jp/inquiry/>